

# どうなる!?!国家試験～第32回試験を振り返って～

令和になって最初の国家試験である第32回試験は、出題形式に変化はなかったものの、前回多く見受けられた正しい（適切な）ものを2つ選択させる問題が、午前・午後合わせて17問とやや少ない印象を受けた。

科目により差があるものの、全体的に午前科目を中心に難しく感じる科目が多く、午前科目の「現代社会と福祉」では、歴史や理論について出題されつつも、外国人材の受け入れや「持続可能な開発目標」（SDGs）など時事的な出題もあり、テキスト的な学習では対応が難しい問題が見られた。その他では「地域福祉の理論と方法」「権利擁護と成年後見制度」が難しく感じられたものの、「人体の構造と機能及び疾病」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」などは易しく感じられた。

午後科目は事例問題が多く、例年点数を取りやすい「相談援助の理論と方法」でも過去に出題のなかった援助の理論が出題されており、点数を伸ばすのが難しかったとともに「福祉サービスの組織と経営」「高齢者に対する支援と介護保険制度」も難しく感じられ、午前科目ほどではないものの難しく感じる科目が多かった。しかしながら、問題文を読んだときに聞いたことのない理論や人物、法律の規定に目が奪われがちであるが、問題文をよく読むと意外にシンプルで簡単な選択肢が正解であるものも多く、受験生にとっては難しい文章に惑わされずに落ち着いて問題をよく読むことが求められる試験でもあったように感じられた。

